



2023 平和旬間



「希望をもってともに歩む Let's hope and walk together

～あきらめずに目を覚ましてStay awake, never give up～

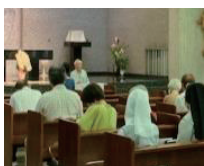
8月の平和旬間に大阪大司教区内の各小教区で、さまざまな催しが開かれ、多くの小教区からその報告が届きました。これまでにない猛暑のなか、平和旬間のテーマに沿って各小教区でアイデアが練られ、工夫が凝らされ、ともに平和への思いを新たにしたい様子が見られました。10月号と11月号で、各小教区からいただいた報告の抜粋をご紹介します。皆様の各小教区で、今後の平和旬間や平和への取り組みを考える際のヒントにご活用いただければ幸いです。

報告の詳細は、後日「平和旬間報告集」にまとめて、各小教区にお送りする予定です。

◆**姫路西ブロック** 8/12(土)、5教会(網干・たつの・飾磨・相生・赤穂)の合同開催。レネ神父の講話を聞き、感想を自由に分かち合った後、ミサをおこなった。平和の意識を刷新するにはこのような集まりを開くことが効果的だと感じた。平和を選ぶには、子どもの頃から平和教育や平和を願う祈りが欠かせないとの声もあった。

◆**豊岡** 8/6(日)、「平和を兄弟姉妹とともに考え見つめ合う集い」のテーマで、「ヒロシマ・ナガサキ核戦争のもたらすもの」のDVDを鑑賞し、分かち合いを通じてともに平和を考えたい。若い方の参加が無かったのだが、戦中派の方の戦争の実体験を聴くことができた。平和への問題意識が全体に浸透している空気を感じた。

◆**仁豊野** 8/6(日)、「ともに考えよう 平和への道」のテーマで、戦争体験談を掲示し、平和祈願ミサで奉納した。戦争体験談「学徒動員の日々」や「一本の鉛筆」という詩の朗読を聞いた。ベトナム人の参加者が増えているので、両方のことばで聖歌を歌った。二度と戦争を起こしてはならないとの思いがわいた。



◆**佐用** 8/6(日)と8/9(水)に祈りをささげて教会の鐘を鳴らした。8/19(土)は、『ETV特集・市民と核兵器～ウクライナ危機の中の対話～』の録画を見て、平和について分かち合った。原爆忌と終戦の日教会の鐘を鳴らすことは、小さな教会でもできる平和活動だと感じた。



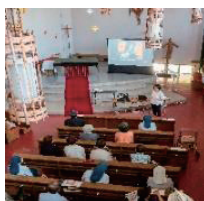
◆**姫路** 8/6(日)に「火垂るの墓」、8/13(日)に「島守の塔」を上映した。子どもたちと大人と一緒に映画を観て、平和へのメッセージを書いてミサで奉納した。どちらの映画もわかりやすく、戦争や平和を考える上で役立った。被爆国日本が核兵器の廃絶と戦争のない世界の実現のためにリーダーシップを取る立場であるのに、残念だと感想があった。



◆**加古川** 8/6(日)、平和祈願ミサで聖フランシスコの平和の祈りを祈るよう呼び掛け、平和へのメッセージを奉納した。各家庭からうちわを持ち寄り、支援金とともに釜ヶ崎の「出会いの家」に贈った。難民移住者を支援するシナピス工房の製品も完売できた。



◆**垂水** 8/6(日)、講演会「難民は平和を知っている～難民との共生を目指す大阪教区の取り組み～」(講師:ピスカルド篤子さん)を実施した。野宿者支援炊き出しチームによるカレーライスを食べながら、講師を囲んでシナピスの取り組みや難民の現状を知った。社会活動的な視点を、日々の活動の中に取り入れていくことの大切さを学んだ。



◆**六甲** 8/6(日)、西宮クロスロード教会の千東史和牧師と浄土真宗本願寺派万徳寺坊守の谷川美加さんをお招きし、宗派や宗教を越えた平和への思いを聞き、ともに祈った。宗教は違っても平和を希求する思いは同じで、カトリックの中に留まらず、他の宗教・宗派ともつながりを作るべきだと思った。



◆**洲本** 8/6(日)、各国語で書いた平和の祈りを「平和の木」に貼り付け、皆で平和への願いを新たにしたい。3人の戦争体験者から空襲や引き揚げの話聞いて、戦争の恐ろしさを感じた。今のウクライナの状況と重なり、現在起きている戦争や紛争の一刻も早い解決を望む感想があった。



◆**たかとり** 8/20(日)、「神戸在住ベトナム人の背景と状況」をテーマに、難民として日本に定住している講師の体験を聞いた。また、その後に来日し定住しているベトナム人の現状や技能実習生が置かれている状況を知り、難民や定住者との相互理解に向けた機会になったと思う。



◆**鈴蘭台** 9/3(日)、ウクライナから神戸に避難して来られた、元バレリーナのヴィクトリアさんとご家族を教会に招き、避難までの経緯や避難生活についてのお話を聞いた。避難者の生の声を聞いて、参加者の反応は予想以上に大きかった。また困難ななか、彼女がウクライナの子どもたちに送金されておられることにも感銘を受けた。



◆**住吉** 8/6(日)～8/15(火)、「戦争は死です」をテーマに世界地図を掲示し、戦争や内乱が行われている地域を選んで、日常的に祈り過ごすことを提案した。地図の傍らにはウクライナの教会にあった聖櫃を設置し、世界情勢を知ることで、祈りを深めた。



◆**神戸中央** 8/5(土)、ブレース神父から母国コンゴ民主共和国の子どもたちのお話を伺い、写真を見ながら平和について考えた。今も続く武力衝突や難民の話、原爆投下、原発、気候変動による災害、貧困と食糧危機、差別などの問題に思いを巡らせた。平和ミサの後、上記の理由で尊い命を失った人々の鎮魂のために、一人ひとりが蝋燭を灯して焼香した。



◆**芦屋** 8/5(土)、芦屋市役所北側広場で芦屋聖マルコ教会や市民の皆さんと、「平和の祈り」をおこなった。8/6(日)はチャリティコンサート、8/20(日)はウクライナ支援のダンスパフォーマンスを開催し、ウクライナから兵庫県に避難しているバレエダンサーの活躍ぶりを紹介する動画も上映した。



◆**夙川** 8/6(日)、終戦時に子どもだった3人の戦争体験者によるお話し会と分かち合いを行った。40代以下の参加者が少なかったことから、戦争体験を語り継ぐことの難しさを感じた。お話しは、ホームページからも視聴できるようにした。また、平和への思いを日記のように毎日綴り、ピースツリーに貼っていく当教会の取り組みは、3年目を迎えた。



◆**甲子園** 8/13(日)、保護司の方々から活動内容やなぜ保護司としてボランティアで活動するのかなどを話していただいた。罪を犯した方が更正される時、地域社会の理解を得るために、保護司の役割がとても大事であることの理解を深めた。

◆**仁川** 8/5(土)～8/13(日)、2週にわたって平和祈願ミサを捧げた。原爆投下時刻に教会の鐘を鳴らし、祈りを捧げた。6日は「日本国憲法のこのころ」と「平和への誓い」の朗読、13日は「アンネのバラの教会」の坂本誠治牧師や信徒の方々をお招きし、教派を越えてともに祈り、聖コルベやアンネの生き方を学んだ。



◆**宝塚** 8/11(金)、片柳弘史神父による平和祈願ミサと「すべては祈りから～マザー・テレサに学ぶ平和への道」のテーマで講演会を開いた。マザーとの直接の触れあいのなかで実感された体験談から、自分も神様から愛されていると実感することで、隣人を愛することができる気づかせていただいた。



◆**園田** 8/13(日)、ミサ後にNHKスペシャル「ヒューマンエイジ 戦争 なぜ殺し合うのか」を鑑賞した。自分の仲間は大切に、他者は排除することから戦争は始まる。日々の生活の中で他人を思いやる心を持つことの大切さを学んだ。



◆**尼崎** 8/6(日)、祭壇前にマリア像を移動し、平和をテーマにして子どもたちが描いた絵をマリア像の前に展示した。「平和を求め祈り」とロザリオ一連を唱え、子どもたちが「平和の道具にしてください」を合唱した。閉祭の言葉で、司祭が平和を力強く呼びかけた。



◆**日生中央** 8/13(日)、手話で「キリストの平和」を合唱。絵本「さがしています」の上映と朗読。富神父の「カトリック平和の教え」の講話の後、平和祈願メッセージをボードに展示した。戦争は人間の悪が大きくなったもの。そうならないために一人ひとりが挨拶をし、隣人を大切にするようにしたい。

